

| | | | | | | | | | |
|-------------------------|---|---------|------------------------------|-------------|---------|----------|---------|--------|---------|
| 1. 科目名 (単位数) | 経営管理論 (2単位) | 3. 科目番号 | SBMP3112 | | | | | | |
| 2. 授業担当教員 | 谷口彰一 | | | | | | | | |
| 4. 授業形態 | 講義、集団討議、学生との応答など | 5. 開講学期 | | | | | | | |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 「経営組織論」や「マーケティング論」も履修することが望ましい。 | | | | | | | | |
| 7. 講義概要 | <p>本講義では組織の管理についての解説を行い、経営管理の理論的な部分に関して初歩的な理解を促すことが目的である。そのために、まずは、代表的な経営学説を学ぶことから始める。</p> <p>講義の流れとしては、経営管理の全体を把握するため、経営学の誕生、近代組織における経営管理の登場とその発展について学習する。変革する経営管理について、組織の活性化、モチベーション及び経営のリーダーシップについて学習を進める。</p> <p>また、経営の創始者としてのテイラーや管理原則を展開したファヨールの議論などを紹介する。最終的には人事労務管理論や財務管理論へと議論を展開して、経営管理の全体像を把握できるようにする。</p> | | | | | | | | |
| 8. 学習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業はもちろん病院・学校・公共団体などをはじめ家庭・個人にいたるまで経営管理能力が必要とされている。組織の経営管理活動の過去・現在・未来を理解できるようになる。 2. 社会で要求される管理能力の基礎を身に付けると共に、行動案を立案できるようになる。 3. 自分自身のマネジメント、即ちセルフマネジメントを理解し、実践力をつけることを目的とする。 | | | | | | | | |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | 定期的なアサイメントについては特に課さない。しかし、学習に必要な場合はレポートを課す。また、授業展開の中で特に重要となる授業内容の予備知識を調べてくるように提示する。前回の授業とのつながりを解説しながら授業を進めるが、特に重要となる授業内容については、その都度、各自でその要点をまとめてくるよう提示する。 | | | | | | | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | 上野恭裕・馬場大治著『経営管理論』、中央経済社、2016 | | | | | | | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | <p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業の経営を実践と理論の両面から平易な資料を用意して授業を進めたため、組織経営の基本的仕組は理解できたか。 2. 組織の管理能力の基礎的な考え方を身に付けることで、グローバルな視点で経営管理を考えるような力が付いたか。 3. 企業の経営管理の理解だけでなく、病院や公共施設などの経営管理の違いを理解できるようになったか。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、課題レポート、期末試験等を総合して評価する。]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 課題レポート</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 期末試験</td> <td>総合点の40%</td> </tr> </table> | | | 1 授業への積極的参加 | 総合点の30% | 2 課題レポート | 総合点の30% | 3 期末試験 | 総合点の40% |
| 1 授業への積極的参加 | 総合点の30% | | | | | | | | |
| 2 課題レポート | 総合点の30% | | | | | | | | |
| 3 期末試験 | 総合点の40% | | | | | | | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | <p>本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は、下記のことを守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業には欠席、遅刻、早退はしないこと (欠席、遅刻、早退の場合は、その理由を書面にて提出のこと)。 ②授業中理解できなかったことは、そのまま放っておかず質問すること。 ③授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話の電源は切っておくこと。 ④授業中は緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加すること。 ⑤課題の提出期限を厳守すること。 | | | | | | | | |
| 13. オフィスアワー | 授業内 (初回授業) で周知する。 | | | | | | | | |
| 14. 授業展開及び授業内容 | | | | | | | | | |
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | | | | | | | |
| 第1回 | 経営管理論とはどのような学問か | 事前学習 | テキスト第1章 (pp.12~25) をまとめる。 | | | | | | |
| | | 事後学習 | 管理者の垂直的階層についてまとめる。 | | | | | | |
| 第2回 | 企業とはどのような存在か | 事前学習 | テキスト第2章 (pp.26~42) をまとめる。 | | | | | | |
| | | 事後学習 | 株式会社の特徴について整理し、まとめる。 | | | | | | |
| 第3回 | マネジメントの誕生 | 事前学習 | テキスト第3章 (pp.43~59) をまとめる。 | | | | | | |
| | | 事後学習 | 科学的管理法における課業管理について整理し、まとめる。 | | | | | | |
| 第4回 | 組織マネジメントの展開 | 事前学習 | テキスト第4章 (pp.60~76) をまとめる。 | | | | | | |
| | | 事後学習 | 組織成立の3要素についてまとめる。 | | | | | | |
| 第5回 | モチベーション論 | 事前学習 | テキスト第5章 (pp.78~92) をまとめる。 | | | | | | |
| | | 事後学習 | 欲求階層説についてまとめる。 | | | | | | |
| 第6回 | リーダーシップ論 | 事前学習 | テキスト第6章 (pp.93~108) をまとめる。 | | | | | | |
| | | 事後学習 | SL理論についてまとめる。 | | | | | | |
| 第7回 | 組織構造のマネジメント | 事前学習 | テキスト第7章 (pp.109~125) をまとめる。 | | | | | | |
| | | 事後学習 | 企業組織についてまとめる。 | | | | | | |
| 第8回 | 組織文化のマネジメント | 事前学習 | テキスト第8章 (pp.126~140) をまとめる。 | | | | | | |
| | | 事後学習 | 組織文化の機能についてまとめる。 | | | | | | |
| 第9回 | 経営組織の環境適応 | 事前学習 | テキスト第9章 (pp.142~158) をまとめる。 | | | | | | |
| | | 事後学習 | コンティンジェンシー理論の意義について整理し、まとめる。 | | | | | | |

| | | | |
|------|-----------------------|------|----------------------------------|
| 第10回 | 企業戦略のマネジメント | 事前学習 | テキスト第10章(pp.159~173)をまとめる。 |
| | | 事後学習 | PPMマトリックスについてまとめる。 |
| 第11回 | 競争戦略のマネジメント | 事前学習 | テキスト第11章(pp.174~188)をまとめる。 |
| | | 事後学習 | 5つの競争要因分析についてまとめる。 |
| 第12回 | イノベーションのマネジメント | 事前学習 | テキスト第12章(pp.189~204)をまとめる。 |
| | | 事後学習 | オープン・イノベーション戦略について調べ、まとめる。 |
| 第13回 | 日本企業における人のマネジメント | 事前学習 | テキスト第13章(pp.206~220)をまとめる。 |
| | | 事後学習 | 日本企業の人事制度についてまとめる。 |
| 第14回 | 生産管理とその日本的特徴 | 事前学習 | テキスト第14章(pp.221~237)をまとめる。 |
| | | 事後学習 | 品質改善活動(PDCAサイクル)についてまとめる。 |
| 第15回 | 日本企業の財務管理とコーポレートガバナンス | 事前学習 | テキスト第15章(pp.238~255)をまとめる。 |
| | | 事後学習 | 「会社は株主のものである」という考え方の根拠と問題点を整理する。 |